

# 2022年アルミ業界重大ニュース

2022年12月26日

項 目	コ メ ン ト
①LMEのアルミ価格、史上最高値を記録	3月、ロンドン金属取引所（LME）のアルミ価格は、3ヶ月先物価格がウクライナ情勢の緊迫化に伴う電力価格高騰によるアルミ地金生産の懸念とロシアからのアルミ地金供給懸念の高まりにより、1トあたり4,000ドルを超え、史上最高値を記録。
②原燃料等価格の上昇、アルミ業界に多大な影響	ウクライナ情勢による影響などにより、原油、重油、LNGなど原燃料価格の上昇、物流費や副資材費等の値上がりが長期化、アルミ業界は多大な影響を受けた。
③新幹線として初めて「車体から車体へ」の水平リサイクルが実現	東海旅客鉄道(株)、日本車輛製造(株)、(株)日立製作所、ジェイアール東海商事(株)、日軽金アクト(株)は5社共同で、新幹線車両の廃アルミ材を強度が求められる新幹線車両の車体の一部に再利用する「車体から車体へ」のアルミ水平リサイクルを実現。新幹線として初めて車体の一部に再生アルミ材を使用することにより、車体製造時のCO <sub>2</sub> 排出量は1編成あたり約50トン削減可能となる。
④アルミ協会、コストや価格転嫁に関するアンケート調査結果をリリース、公正取引委員会のホームページにも掲載	アルミ協会は、会員企業を対象にアルミ製造に係るコスト及び価格転嫁の状況に関するアンケート調査を実施。12月の記者会見でリリース、ホームページに掲載するなど対外的に公表した。このアルミ協会の取り組みは、他の事業者及び事業者団体の参考になる事例として、公正取引委員会のホームページにも掲載されている。
⑤アルミ板の輸入統計品目番号（HSコード）が細分化	財務省告示により、アルミ板の輸入統計品目番号（HSコード）が2023年1月1日より細分化されることになった。3000系、5000系、6000系の統計品目番号が新設され、輸入アルミ板材の具体的な品目の把握が可能となる。
⑥世界初のリサイクルアルミ100%を使用したアルミ缶を開発	(株)UACJ、東洋製罐グループホールディングス(株)、サントリー(株)は3社共同で、世界初のリサイクルアルミ100%を使用したアルミ缶を開発。缶胴、缶蓋ともUBC（使用済アルミ缶）や製造工程で発生したスクラップ材を使用することにより、1缶当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を通常缶より60%削減。
⑦アルミスクラップ輸出量、過去最高へ	UBC（使用済アルミ缶）を含むアルミスクラップの1-10月期の輸出量は、最近の円安を背景に364,883トと、暦年（1-12月期）で過去最高を記録した2021年の389,744トを上回る勢い。
⑧アルミ箔業界で再編	8月、(株)UACJと日本軽金属ホールディングス(株)は、子会社である(株)UACJ製箔と東洋アルミニウム(株)が統合し、2023年4月1日に新会社を設立すると発表。経営統合を通じ、生産・開発力の融合やコスト削減を進め、国際競争力の強化を図る。
⑨アルミ協会、アルミスクラップ回収量の見通しを策定	5月、アルミ協会のアルミ循環委員会・スクラップ見通し分科会は、アルミ循環ビジネスの新たな指標となるアルミスクラップ回収量の見通しを策定。アルミ製品の国内出荷量を基に、使用済みの量や廃棄量などを用いて回収量を算出し、2050年は181万トの回収量を予想。今後、年1回の頻度で見通し値を公表する。
⑩アルミ協会、2050年カーボンニュートラルに向けたビジョンを策定	1月、アルミ協会は2020年3月に策定した「アルミニウム圧延業界の温暖化対策長期ビジョン（2050）」を基本として、「アルミニウム圧延業界の2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン」を策定。展伸材製造時の国内CO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロを目指す。
⑪アルミ協会、「アルミニウム技術戦略ロードマップ2022」を発行	5月、アルミ協会は「アルミニウム技術戦略ロードマップ2022」を発行。2050年カーボンニュートラルに向けて脱炭素社会、循環型社会および安全安心快適社会の実現を目指すロードマップに、学側の基盤研究に関するロードマップも加えた意欲的な内容に大幅改定した。
⑫米国でアルミ缶材の工場新設の発表相次ぐ	3月、アルミ圧延メーカーのノベリスは生産能力60万トン規模のアルミ圧延工場（缶材と自動車材）を、5月、製罐メーカーのボールはアルミ缶材とリサイクル工場を、7月、鉄鋼メーカーのSDI（Steel Dynamics Inc.）は年産能力65万トン規模のアルミ圧延工場（缶材と自動車材）を新設すると発表。米国でのアルミ缶材の工場新設が相次いで発表された。